



Japan International Education Society

日本国際教育学会

第37回研究大会 プログラム

日程：2026年10月3日（土）・10月4日（日）

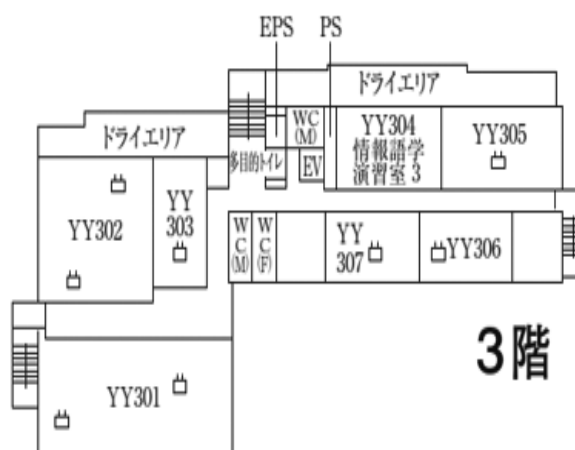
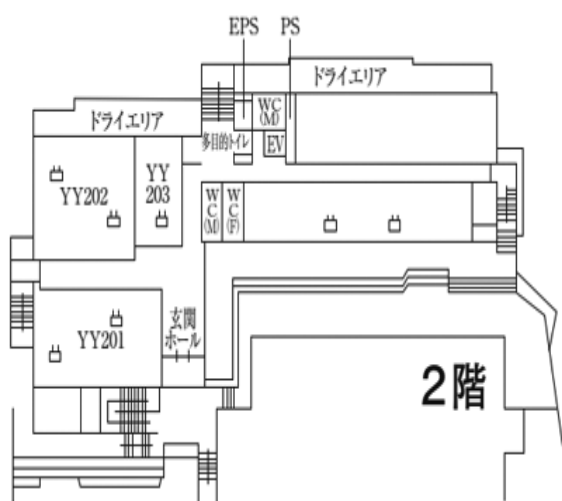
会場：立命館大学 衣笠キャンパス 洋洋館

I 開催要項

1) 開催日時: 2026 年 10 月 3 日(土) 10 時 ~10 月 4 日(日) 15 時

2) 大会会場: 立命館大学 衣笠キャンパス 洋洋館

(〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1)



■JR・近鉄京都駅から

市バス 50 にて 42 分、市バス・JR バス快速立命館にて 36 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 205 にて 38 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分。

JR バス 高雄・京北線にて 30 分、「立命館大学前」下車。

■JR 円町駅から

市バス・JR バス快速立命館にて 8 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 15 にて 10 分、臨にて 9 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 204/205 にて 5 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分。

JR バス 高雄・京北線にて 8 分、「立命館大学前」下車。

■阪急電車西院駅から

市バス・JR バス快速立命館にて 15 分、臨にて 17 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 205 にて 13 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分。

■京阪電車三条駅から

市バス 12 にて 53 分、市バス 15 にて 34 分、市バス 51 にて 36 分、「立命館大学前（終点）」下車。

市バス 59 にて 40 分、「立命館大学前」下車。

* 詳しくは立命館大学 HP をご覧ください。<https://www.ritsumeit.ac.jp/accessmap/kinugasa/>

* 宿泊についてはご自身でご手配くださいますよう、お願い申し上げます。

3) 大会日程

10 月 3 日(土)

時間	プログラム	使用教室等
9:30~10:00	受付	洋洋館 2 階
10:00~11:30	自由研究発表 I	洋洋館 YY201、YY202、YY203
11:30~12:30	昼食休憩、シンポジウム打ち合わせ	洋洋館 YY307、YY306、YY303
12:30~14:45	公開シンポジウム	洋洋館 YY301
15:00~16:00	総会	洋洋館 YY301
16:15~18:00	情報交換会	生協 ROSSO（上記マップ 14）

10 月 4 日(日)

時間	プログラム	使用教室等
9:30~10:00	受付	洋洋館 2 階
10:00~12:00	自由研究発表 II	洋洋館 YY201、YY202、YY302
12:00~13:00	昼食休憩	洋洋館 YY307、YY306
13:00~15:00	課題研究	洋洋館 YY301

* 自由研究発表分科会（洋洋館 YY201、洋洋館 YY202、洋洋館 YY302）、公開シンポジウム・課題研究（洋洋館 YY301）、会員控室・休憩室（洋洋館 YY306）、理事・シンポジウム登壇者控室（洋洋館 YY303）、事務局控室（洋洋館 YY203）

* 大会両日とも、学内の売店・食堂はすべて休業しております。近隣にコンビニエンスストアやレストランはありますが、店舗数に限りがございます。お手数をおかけいたしますが、**各日とも昼食は、事前に各自にてご持参・ご準備くださいますようお願い申し上げます。**

4) 参加費

会員 3,000 円 学生会員 無料 非会員 4,000 円

情報交換会参加費： 会員 4,000 円 学生会員 3,000 円

- * 参加費は、受付の際に現金でお支払い下さい。その際に領収書をお渡し致します。学生の大会参加費につきましては無料です。また、10月3日（土）に予定しております公開シンポジウムのみに参加される場合は、無料です。
- * 今大会では情報交換会を予定しておりますので、みなさまのご参加をお待ちしております。情報交換会参加費は、当日、現金でお支払い下さい（会員 4,000 円 学生会員 3,000 円）。

5) 自由研究発表における留意事項

○発表者は、当該分科会開始 10 分前までに分科会会場にお入りください。

○発表時間は、個人研究／口頭発表者が 1 名の場合の共同研究→発表 20 分＋質疑応答 10 分、口頭発表者が 2 名以上の場合の共同研究→40 分＋質疑応答 20 分です。発表時間の超過は認められません。時間配分にご注意ください。

○発表時刻および発表順の変更は原則として行いません。やむを得ない事由により発表辞退が発生した場合も同様です。その際は司会者判断により休憩または討論の時間とします。

○配布資料は、発表者が事前に各自印刷（20 部程度）の上、会場にご持参願います。資料の形式は原則自由とします。大会期間中、配布資料等を会場内で印刷・作成することは出来ません。資料その他を事務局でお預かりすることも出来ません。ご了承下さい。

○発表に際し、PC 使用の場合、パソコンは各自でご用意（お持ち込み）下さい。プロジェクターは利用できます。VGA ケーブルおよび HDMI ケーブルはすべての会場に備え付けられています。なお、コンピュータを VGA 端子等に接続する際の変換アダプタは、各自でご用意頂くようお願いいたします。

Ⅱ 自由研究発表Ⅰ（10月3日（土） 10:00～11:30）

第1分科会【洋洋館2階 YY201教室】

司会：塚田 英恵（立命館大学）

(1) 10:00～10:30

「文化の橋渡し」を超える留学生ファシリテーターの役割
—JICA 青年研修における対話の媒介と相互学習—

沼尻 卓也（福井大学）

(2) 10:30～11:00

多文化共修における学生サポーター活用に関する予備調査：全国大学のウェブサイト調査より

○大根田 梨乃（一橋大学大学院）
秋庭 裕子（一橋大学）

(3) 11:00～11:30

大学国際担当上級管理職の人材育成観—探索的調査から導く課題と展望—

米澤 由香子（東北大学）

第2分科会【洋洋館2階 YY202教室】

司会：小野寺 香（奈良女子大学）

(1) 10:00～10:30

日本の高校在籍外国人留学生に対する大学特別選抜制度の適用実態と変容
—全国入試要項調査の経年比較から—

朱 華威（明德義塾高等学校）

(2) 10:30～11:00

国と地域と教育機関の持続可能性とバランスの視点を重視した留学生施策
—2024年以降のカナダの取組み—

熊谷 朋子（北陸大学）

(3) 11:00～11:30

中国総合実践活動における研究性学習の実施を支える教師の役割

周 博雅（広島大学）

第3分科会【洋洋館3階 YY302教室】

司会：田中 潤一（関西大学）

(1) 10:00～10:30

尊厳を教育の基盤として位置づけることの教育的意義

—国際理解教育およびグローバル・シティズンシップ教育の視点から—

佐藤 明日可（Independent Researcher）

(2) 10:30～11:00

パウロ・フレイレの教育とブラジルの政治—政治教育学的な問いをめぐる—考察—

山口アンナ真美（東京都立大学）

(3) 11:00～11:30

道徳教育における「多文化共生」の地平

山本 理恵（千葉大学大学院・千葉県山武市立山武北小学校）

Ⅲ 公開シンポジウム（10月3日（土）12：30～14：45）

DEI をめぐる教育の現状と課題－錯綜する議論から解決の糸口へ

【洋洋館3階 YY301 教室】

■報告者1 福留東土（東京大学）

「アメリカの大学における DEI を巡る動向」

■報告者2 太田浩（一橋大学）

「世界的な留学生受入れ政策の分岐を考察する：DEI の視点と展望を含む」

■報告者3 堀江未来（立命館大学）

「小学校からの DEI 教育：異文化感受性を育む国際教育実践」

司会者 羽谷沙織（立命館大学）

近年、Diversity・Equity・Inclusion（DEI）をめぐる理念や実践は、アメリカを中心として社会的・政治的な論争の対象とされている。Black Lives Matter（BLM）運動に象徴されるように、DEI の理念が社会的支持のもとで拡張・推進された局面が存在する一方で、現在では政策的制限や批判の対象ともなっている。このような状況のもとで、DEI はしばしば特定の政治的立場と結びつけて理解され、「賛否」をめぐる対立的な言説のなかで語られる傾向が強まっている。しかし、本来 DEI とは、社会および教育制度の内部に存在する不平等や排除の構造を可視化し、多様な人びとが学習や活動に参加する条件をいかに整えるかを問う分析枠組みとして構想されてきた概念である。

本シンポジウムでは、こうした DEI をめぐる社会的・政治的動向を踏まえつつ、DEI の本来的な目的および理論的背景をあらためて整理し、教育分野における意義と課題について検討することを目的とする。具体的には、福留東土氏（東京大学）がアメリカの大学における DEI をめぐる政策的・制度的動向を整理し、太田浩会員（一橋大学）が留学生受け入れをめぐる日本と英語圏の高等教育政策を比較的観点から検討する。これを受けて、堀江未来会員（立命館大学）は、小学校段階における国際教育および異文化理解教育の実践を手がかりとして、発達段階の早い時期から、DEI に対する感性を育む教育の重要性を提起する。

これらの報告を通して、DEI を特定の政治的立場に還元するのではなく、教育における公平性および包摂性を検討するための理論的・実践的枠組みとして捉え直し、今後の教育研究および教育実践の方向性について議論する場としたい。

IV 総会

総 会

2026 年 10 月 3 日（土）

15 : 00～16 : 00

洋洋館 3 階 YY301 教室

会員の皆様にはご出席いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

**V 自由研究発表Ⅱ（10月4日（日）第4・5分科会10：00～
11：30 第6分科会10：00～12：00）**

第4分科会【洋洋館2階 YY201教室】

司会：栗田 梨津子（立命館大学）

(1) 10：00～11：00

コリアンルーツの大学生におけるアイデンティティの複雑性
—教育経験と家庭背景の交差性に焦点をあてて—

○佐藤 雄大（名古屋外国語大学）

○羽山 朱音（愛知県立大学大学院）

(2) 11：00～11：30

アジアの音楽教育に見るグローバル化と国民形成

石井 由理（山口大学名誉教授）

第5分科会【洋洋館2階 YY202教室】

司会：白幡 真紀（仙台大学）

(1) 10：00～10：30

オランダにおける教育の自由と質保証に揺れる中等職業教育教員の葛藤

野々山 翔太（名古屋大学大学院）

(2) 10：30～11：00

オーストリアの質保証機関についての研究—専門大学との関係に焦点を当てて—

田中 達也（釧路公立大学）

(3) 11：00～11：30

インターナショナルプリスクールにおける海外幼児教育カリキュラムの導入と再構成
—ニュージーランドとオーストラリアの教育理念に基づく開発過程—

○加藤 あや美（名城大学）

内田 政一（桜花学園大学）

第6分科会【洋洋館3階 YY302教室】

司会：堀江 未来（立命館大学）

(1) 10:00～11:00

The Process of Professional Learning of Student Teachers from Singapore in an International Practicum: Tracing Their Transformation in Reflective Practice Records

○Yoshiko Hanbara (University of Fukui)

○William Tjipto (University of Fukui)

○Takuya Numajiri (University of Fukui)

(2) 11:00～11:30

海外大学との合同プログラムが学生の内的成長に与える効果の測定：Miville-Guzman
Universality-Diversity Scale-Short Form 邦訳版の試験的使用

下山田 翔（慶応義塾大学）

(3) 11:30～12:00

The Dialectics of Scholarly Researcher Excellence: A Critical Realist Analysis of AI-Augmented Research Skills in International Higher Education

Zane M. Diamond (Monash University)

VI 課題研究（10月4日（日）13:00～15:00）

海外諸国の外国人政策と共生社会—ウェルビーイングの視点から—

【洋洋館3階 301 教室】

■報告者1 前田耕司（早稲田大学名誉教授）

「オーストラリアの移民教育支援策と共生社会の課題—日豪の比較の視点を交えて—」

■報告者2 高橋春菜（盛岡大学）

「イタリアにおける外国人受け入れ制度と難民政策の実態」

■報告者3 小川佳万（広島大学）

「中国からの国際移民の構造的変化」

司会者 佐藤千津（国際基督教大学）

ディスカッサント 岩槻知也（京都女子大学）

日本の在留外国人数は増加の一途を辿っている。出入国在留管理庁による2025年の報道発表資料によれば、2025年6月末時点で395万6,619人となり、過去最高を更新した。人口減少が進む日本の経済を支える存在として注目度が高まる一方、就労、教育、医療、住宅など様々な分野で外国人材の受け入れや共生が課題になっている。

本学会では、第33回研究大会公開シンポジウム「外国人市民への生涯学習支援と多文化共生—関西地方の実践を中心に—」において外国人への日本語教育を中心とする学習支援について検討した。第37回研究大会では、より広い視野から、この喫緊の課題にアプローチし、海外諸国の外国人政策と共生社会をめぐる課題について検討してみたい。その際、第36回研究大会の課題研究で取り上げたウェルビーイングの概念を手がかりに、各国に共通する普遍的かつ理論的な課題の提示を試みる。

まず総論として日本の外国人政策に関する論点や理論的な検討課題を海外の先行事例との比較から提示する。次に外国人や移民の受入国（イタリア）と、送出国（中国）の事例をそれぞれ具体的に検討し、最新動向を踏まえた上で、各国に共通する本質的な課題に迫り、日本の現状への示唆を得たい。

日本国際教育学会第 37 回研究大会プログラム

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学 国際教育推進機構

日本国際教育学会 第 37 回研究大会実行委員会

E-mail: jies37rits@pm.me

実行委員長：羽谷 沙織（立命館大学）

実行委員：河野 はぎな（名古屋大学大学院）

大会担当理事：服部 美奈（名古屋大学）

発行日：2026 年 8 月 25 日